

集まれ！地球の仲間たち！

～ふれあい動物から学ぶいのちのつながり～

宮城教育大学 自然フィールドワーク研究会

動物とのふれあいや観察を用いたアクティブ・ラーニングで、

記憶に残る生活科・理科・道徳の時間を！

プログラムの概要

主な学習活動

ヤギ・ウサギ・ウコッケイなどとのふれあい活動／表現活動／動物飼育についてのグループワークなど。

※ 対象学年に応じた4つの学習プログラム（次ページ以降に掲載）を基本として応用可能です！

対象

主に小学生、幅広い年齢に応用可能。

教科学習への活用の例

小学校1年生生活科「いきものとなかよし」 小学校2年生生活科「生きものなかよし大作戦」

小学校3年生理科「春のしぜんにとび出そう」 小学校4年生理科「動物の体のつくりと運動」

小学校6年生理科「地球とわたしたちのくらし」 小学校道徳 など

学習時間 45分～60分、あるいは90分～120分

対象人数 クラス単位(1回につき最大40人まで)

実施場所 宮城教育大学構内もしくは実施対象の学校の校庭など

～衛生面・アレルギー・安全面等への配慮について～

学習活動を安全に行うために、これらのことを遂行します。

○ふれあい活動の前後に、参加者は必ず手洗いをします。

○学校等を通じて事前に保護者に連絡し、扱う動物に対するアレルギーの有無と対応法を確認します。

○アレルギー等により配慮が必要な場合には、マスク着用や観察だけにするなど、個別に対応します。

○活動の前に、安全なふれあいの方法を説明します。

○プログラム実施中、普段から飼育に携わるスタッフが動物に付き添います。

ヤギは温厚な性格ですが、ふれあいの際は首輪を保定するなどして、参加者の安全に十分配慮します。



[ふれあいプログラム]

対象 : 幼児～小学校低学年
 主な学習活動 : ヤギ, ウサギ, ウコッケイのふれあい活動／表現活動
 学習時間 : 45分～60分程度

ヤギ, ウサギ, ウコッケイとのふれあい活動を通して生き物に親しみを持ち, 動物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付く。また, 生き物に応じた飼育に興味関心を持ち, 自分たちで生物とふれあったり飼育するための環境を整えたいと願うようになる。

<活用を想定する小学校の学習単元>

- 生活科 小学校2年生「生きもの なかよし 大作せん」(新しい生活 下 東京書籍)
- 道徳科 (3)-1 生命尊重 など

●単元計画(例): 小学校2年生「生きもの なかよし 大作せん」(13時間)

・単元構成と本プログラムの導入

単元は4つの小単元(さがす・捕まえる・飼育する・伝える)から構成される。本プログラムは, 単元の導入(第1時)として実施する。家畜動物とのふれあい体験から, 自分たちの身の回りにいる生きものに対する興味関心を高め, また動物は種類によって必要とする環境が異なる事を理解する。

・45分間の学習過程(例)

本時のねらい 動物のふれあいを通じて生き物の特徴に興味を持ち, それを表現することを楽しむ。

| 時間 | 主な学習の流れ | 予想される子どもの反応 | 指導上の配慮事項(※評価の観点の例) |
|-------|-----------|---|---|
| 00:00 | 1. あいさつ | 1. ・どんな動物がいるのかな。 ・ヤギに触れるかな。 | 1. あいさつ。 |
| 00:05 | 2. 留意点の説明 | 2. ・噛まれないように注意しよう。 ・動物が嫌がることをしないよ。 | 2. 動物に触る際の留意点について説明する。 |
| 00:10 | 3. ふれあい | 3. ・ヤギは大きいな。 ・ウサギの体は温かいね。 ・烏骨鶏の足は不思議な形をしているよ。 | 3. 児童を二つのグループに分け, ヤギとウサギ・烏骨鶏を交代で観察させる。 |
| 00:30 | 4. 観察の記録 | 4. ・ふわふわなウサギを描きたいな。 ・ヤギを散歩させたのが楽しかった。 ・少しこわかった。 | 4. 観察して絵を書く。 ※自分なりに生きものと関わり合い, 気づきを表現しようとしているか。(思考・表現) |
| 00:40 | 5. まとめ | 5. ・また会いたいな。 ・動物を飼ってみたいな。 | 5. ワークシートを持ちながら, 今日の感想を発表させる。 |
| 00:45 | | | |

[観察プログラム]

対象 : 小学校中学年
 主な学習活動 : ヤギ, ウサギ, ウコッケイのふれあい活動および観察/標本の観察と考察 など
 学習時間 : 45分~60分程度

動物の体のつくりの多様性を捉えさせるための活動として、ヤギとのふれあいおよび動物の骨格標本を観察する活動を位置づける。

<活用を想定する小学校の学習単元>

○動物のからだのつくりと運動(新しい理科4 東京書籍) など

●単元計画(例): 理科「動物のからだのつくりと運動」(新しい理科4 東京書籍)(5時間)

・単元構成と本プログラムの導入

第1次で学習する「人のからだが動くしくみ」を受け、第2次「動物のほねと筋肉」で実施する。人との共通点と差異を有する動物の観察を行い、体のつくりと運動の多様性や巧みさを体験的に学習できる。

・45分間の学習過程(例)

本時のねらい ヤギのふれあいや骨格標本の観察を通して、動物は過ごす環境や食べ物に適した体のつくりを有していることを理解する。また、人間のからだと比較し、共通点や違いを考察する。

| 時間 | 主な学習の流れ | 予想される子どもの反応 | 指導上の配慮事項(※評価の観点の例) |
|-------|------------------------------------|---|---|
| 00:00 | 1 導入 | 1・ヤギを動物園で見たことがある。 | 1 本時の活動内容と注意点を伝える。 |
| 00:05 | 2 ヤギの観察 ○ヤギの体はどんなふうになっているかな。 | 2・毛がごわごわしている。 ・葉っぱを食べるのかな。 ・上の前歯が生えていないよ。 ・蹄がついているのはなぜだろう。 | 2 ヤギを紹介する。その後、ふれあいと観察をさせる。高い所が好きなヤギの行動特性を伝え、蹄に注目させる。えさやり体験で、歯をどのように使って食べているのかを観察させる。 |
| 00:18 | 3 標本の観察 ○何の動物の標本かな。ヒトの体とどう違うかな。 | 3・いろんな形の頭の骨があるね。 ・さっき見たヤギと同じかな。 ・ネコやキツネには鋭い歯がある。 ・カラスの骨は軽いね。 | 3 教室に移動。肉食動物・草食動物・鳥類の頭骨や足の骨を観察する。どれがヤギの骨か、なぜそう考えたか、意見を発表しあう。ヤギ以外の動物の骨の特徴についても考える。 ※観察をふまえ、動物は暮らしに適した体のつくりをしていることを理解できたか。(理解) |
| 00:38 | 4 まとめ ○どうして動物によって違いがあるのかな。 | 4・食べるものによって、歯の様子が違う。 ・過ごす環境によって、体のつくりが違う。 | 4 動物は、暮らす環境や食べるものによって体のつくりが異なっているということを、まとめる。身の周りの生き物を観察する際、生活環境や食べ物について考える視点をもってみるよう伝える。 |
| 00:45 | | | |

[飼育プログラム]

対象 : 小学校中学年～高学年
 主な学習活動 : ヤギ, ウサギ, ウコッケイのふれあい活動および飼育環境の観察/
 動物飼育についてのグループワーク
 学習時間 : 90分～120分程度

ヤギ, ウサギ, ウコッケイなどのふれあいや観察を行い, その後, それらの動物のよりよい飼育方法を検討することにより, 児童の生命を尊重する態度や生物への興味関心が育つことがねらいである。

<活用を想定する小学校の学習単元>

○小学校道徳 3-(1)生命尊重 など

●単元計画 (例) : 道徳3-(1)生命尊重

・90分の学習過程(例)

本時のねらい 動物の飼育計画を立てる活動を通して, 他の生命を尊重しながら関わり合う態度が育つ。

| 時間 | 段階 | 主な学習の流れ | 予想される子どもの反応 | 指導上の配慮事項 |
|---------------------------------|------------------|--------------------------|--|--|
| 00:00 00:10 | 気 づ く | 1. 身近な動物との関わりについて振り返る。 | 1. ・昆虫を飼ったことがあるよ。 ・犬を飼っているよ。 ・動物園で, ウサギに触ったよ。 | 1. これまでの動物との関わりや飼育経験を振り返らせ, その時の動物の様子(表情や行動)がどのようなであったかを思い出させる。本時では, 言葉を発することのできない動物を飼育する上で必要な関わり方について考えることを伝える。 |
| 00:25 | と ら え る | 2. 動物園や宮城教育大学での飼育の視点を知る。 | 2. ・どうしてこういうところで飼育するのか。 ・それぞれの動物に合った飼育をしているね。 ・ヤギは高いところが好きなのか。 | 2. 動物飼育の工夫の事例を紹介する。その後, ヤギ小屋に移動し, ヤギの行動を観察する。最後に, ヤギの生態の特徴を考慮した遊具・飼育方法について紹介する。 |
| 00:45 (休憩) 00:55 01:25 | ふ か め る | 3. 飼育の工夫を考える。 | 3. ・その動物の特徴が分からないといけないね。 ・楽しく過ごすためにはどうしたらよいだらう。 | 3. 屋内に戻り, 飼育したい動物を決めさせる。その動物を飼育するための工夫を画用紙1枚に表現する課題を伝える。調べ活動を含む制作時間を設ける。 |
| 01:40 | ま と め | 4. 発表する。 | 4. ・動物にとって良いことを考えたよ。 ・なぜこんな工夫をするのかな。 ・実際に飼育してみたいな。 | 4. 考えた飼育計画を, クラス全体に発表させる。児童が自分の考えた工夫に自信を持ち, 他の人の工夫に気づくよう, 教師は支援を行う。動物の生命を尊重しながら飼育する意識を高めさせ, まとめる。 |

[食と環境プログラム]

対象 : 中学年～高学年

主な学習活動 : ヤギ, ウサギ, ウコッケイのふれあい活動および観察／ヤギの搾乳(時期による。要相談)／ヤギミルクの試飲／烏骨鶏卵の試食

学習時間 : 90分～120分程度

食と環境プログラムでは、家畜動物の歴史や家畜が抱える現代的な諸問題について説明を行った後、家畜動物であるヤギやウコッケイのふれあい活動を行う。また、条件が合えば、ヤギの搾乳体験と試飲、ウコッケイの採卵と試食を行うことができる。「普段口にしているものが家畜動物によって生産されている」ということを実感できる学習を提供し、児童の内面に、日常の食事やそれを生み出す生命を尊重する心が育つことを期待する。

<活用を想定する小学校の学習単元> 道徳、総合的な学習の時間 など

●単元計画 (例) 道徳3-(1)生命尊重

・90分間の学習過程(例)

本時のねらい 家畜動物であるヤギやウコッケイのふれあい活動などを通じて、私たちの食が他の生き物に支えられていることに気づき、生命を尊重する心が育つ。

| 時間 | 段階 | 学習活動 | 予想される児童の反応 | 指導上の配慮事項 |
|-------------------------------------|-------|------------------------------|--|---|
| 00:00 00:10 | 気づく | 1. 普段の食を想起させ、家畜動物について説明する。 | 1. ・昨日はカレーを食べたよ。 ・ハンバーグが好きだよ。 ・生き物の肉や卵を食べているんだね。 ・牛乳は牛からとれるよ。 | 1. 児童に、好きな食材や昨晚の夕食のメニューについて尋ねる。家畜動物に関連する意見があればそれを取り上げる。本時では、普段の食に欠かせない家畜動物について学ぶことを伝える。 |
| 00:35 00:45 (休憩) 00:55 | とらえる | 2. 家畜としてのヤギに関連する諸問題について説明する。 | 2. ・ヤギのミルクが飲めるのは、はじめて知ったよ。 ・どうして売っていないのかな。 ・おいしくないのかな。 | 2. 農村からなぜヤギが消えたのか、写真などを提示しながら説明する。私たちは家畜動物をどのように扱っていくのがよいか、という視点を持たせて考えさせる。 |
| 01:20 01:40 | ふりかえり | 3. 家畜動物(ヤギ・ウコッケイ)のふれあい活動。 | 3. ・ヤギを触ったことがあるよ。 ・かわいいな。 ・ヤギはどうして家畜動物なのかな。 ・ウコッケイが卵を温めているよ。 | 3. 屋外で、ヤギ・ウコッケイのふれあい活動を行う。その後、時期等の条件がそろえば、ヤギの搾乳体験、ミルクの試飲、ウコッケイ卵の試食を行う。いずれも不可能であれば、購入したウコッケイ卵の試食を行う。 |
| | | 4. 振り返る。 | 4. ・生き物ってすごいな。 ・食べ物を大切にしよう。 ・私たちの食は、生き物に支えられているね。 | 4. 本時の学習を通して感じたことを、ワークシートに記入させる。人と家畜動物との関係を忘れず、食を楽しんでもらいたいとまとめる。 |

宮城教育大学自然フィールドワーク研究会について

自然や動物、環境教育に関する活動を行う、大学公認の団体。

大学構内で動物飼育を継続しており、環境教育事業や川の生態系の調査にも取り組んでいます。

[主な活動] (2016年)

- ・大和町鶴巣小学校における総合的な学習の時間の授業実施(年2回)
- ・仙台近郊の河川生物調査(月1回)
- ・動物(ヤギ)を用いたふれあい教育の実践補助
- ・大学構内の動物飼育補助
- ・環境学習イベントの実施、実施補助
- ・「新寺こみち市」におけるヤギのふれあい事業の実施(月1回・冬季を除く)

○代表者名：齊藤千映美 ○電話：022-2140-3534 ○FAX：022-214-3534

○住所：〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 宮城教育大学

○E-Mail：E6078@students.miyakyo-u.ac.jp